

日本分類学会連合ニュースレター

News Letter published by the Union of
Japanese Societies for Systematic Biology

No. 23 [2013年6月21日]

加盟学会のトピックス：

1F=1N

日本菌学会

細矢 剛

(国立科学博物館)

「1F=1N」。菌類の分類について研究している人でなければ、この記号の意味を分かる人はあまりいないだろう。物理の法則ではない。この式が意味するところは、「One fungus, one name」（一つの菌に一つの名前）である。

分類学の成果の一つは、いろいろな生物（種）に名前を付けることである。しかし、人間の認識には限界がある。同じものを違う種とったり、違う種を同じとったり。このような場合、一つの生物に複数の名前が与えられることがあるのは分類学をかじった人間には不自然には思われまいだろう。このような混乱を避け、正しい名前を選べるようにしたルールが命名規約で、菌類の命名は植物命名規約に支配される。ところが、植物命名規約には「59条」という菌類の一部にだけ適用されるルールがある。これは多型的な生活環を有する菌類に関するもので、有性生殖（有性時代）、無性生殖（無性時代）を営む子嚢菌類・担子菌類の一部に、それぞれの時代に対して別な学名を与えることを許すというものである。以下に詳しく説明しよう。

子嚢菌類や担子菌類の一部には有性生殖と無性生殖の両方を営むものがある。それぞれの時代は大きく異なっており、とても同じ生物とは認識できない。そのため、それぞれの生物に対して名前を与える習慣があるのだ。有性生殖時代をテレオモルフ、無性生殖時代をアナモルフといい、全生活環をホロモルフと呼ぶ。有性時代は子嚢菌類（亜門あるいは門）あるいは担子菌類として（有性胞子の作り方に基づき分類）、無性時代は不完全菌類として分類されてきた。ややこしい話なので、あまり適切でないことを承知で例えるならば、形態的に同じ生物とは思えないオタマジャクシとカエルにそれぞれ別な学名を与えているようなものである。ところが、オタマジャクシは育てれば必ずカエルになり、カエルの卵は必ずオタマジャクシを経てカエルになるのに対し、菌類ではいわばオタマジャクシがオタマジャクシを生む、カエルがカエルを生む、オタマジャクシがカエルを生む、あるいはその逆ということが生じるのである。さらに菌類は微生物である。二つ以上の種類のアナモルフとテレオモルフが同所的に存在していたら、その対応関係は簡単には明らかにできない。そのため、テレオモルフ・アナモルフのそれぞれに対して名前を与える習慣は、菌類の分類研究者の間に定着してきたのである。そして、テレオモルフの胞子（子嚢胞子など）を単一に分離、培養して得られるアナモルフを確認し、対応関係を調べる、というようにして両者の対応関係は証明されてきたのである。ところが分子系統学的手法のお目見えによって、大きな変化が生じた。いまやテレオモルフから得られたDNA

配列情報とアナモルフから得られたDNA配列情報を照らし合わせて同一となれば、この両者が同所的に存在しなくても、両者は生物学的に同一と考えられるわけである。そこで、いよいよ一つの菌に二つの名前を与えることをやめようというムーブメントが本格的に生じたのである。

思えば、そもそも命名規約は一つの生物に一つの名前を決めるためのものである。一つの生物に二つの名前を与えることを正当化する59条は、そもそも、自己矛盾しているとも考えられる。また、同一の生物に二つの名前を与えれば、それは不要な名前のインフレーションをもたらすことになる。生物多様性情報を扱うデータベースの点からもシノニムではない同一の生物に二つの名前があるというのはよろしくない。

以上のような背景から、ついにウィーンの国際植物学会議において59条の改訂が決まった。新しい59条は、一つの菌に一つの名前を謳ったもので、これが「1F=1N」と表されたのである。

では、二つある名前のどちらにするのか。これについてはいくつかの議論があった。簡単にするには、テレオモルフに合わせる、あるいはアナモルフに合わせるということであろう。しかし、分類学は「優先権」という概念がある特異な分野である。「先に出版された正当名」を採用するとなれば、いささかの混乱が生じるであろう。というより、どちらに優先権があるかを調べるのは膨大な手間が必要ではないか。いや、どちらかの属に合わせるために、いずれにせよ新しい組み合わせは必要になり、一時的に混乱は避けられない。コウジカビ属 (*Aspergillus*) やアオカビ属 (*Penicillium*) のような慣れ親まれ、応用上も重要なものはどうなるのか、など、多くの議論がこの数年で交わされ、2012年の4月にはオランダのアムステルダムで「One Fungus Which Name」というシンポジウムが開催された。この会議は、インターネットを通じて中継され、技術の進歩を感じた。また、できるかぎりオープンな会議を目指したことも大きな特徴であり、それだけ世界的にも関心が集まる話題であったことを象徴している。日本菌学会でも、この話題についての議論が盛んで、昨年（2012年）の第56回大会で、この話題を扱うシンポジウムが開催された。

一方、新しい59条は2013年1月から有効になるため、国際的には、主要な分類群ごとに、特別委員会が組織され、どちらの学名にするべきかについて議論がなされた。日本菌学会のメンバーもいくつかの委員会の委員として活躍しており、その結果がまもなくまとまる見込みである。日本菌学会ではこの経過を受け、本年6月の第57回大会でも、情報共有のための会合が開催された。アナモルフが多い子嚢菌類やアナモルフの研究をしている研究者にとっては59条の改訂は日本の憲法9条改訂にも匹敵する一大事である。命名規約の改訂や学名の変更が研究者のコミュニティに周知され、一般へも浸透するには、さらに時間もかかるであろう。今後の動向に注目したい。

日本分類学会連合第12回シンポジウムの要旨は第22号に掲載されています。

会期：2013年7月6日(土)～7日(日)
会場：京都大学農学部総合館

日本分類学会連合加盟学会の大会・シンポジウム

日本哺乳類学会

第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会

種生物学会

第45回種生物学シンポジウム
会期：2013年11月29日(金)～12月1日(日)
会場：亀の井ホテル別府店

会期：2013年9月6日(金)～9日(月)
会場：岡山理科大学

地衣類研究会

第42回大会(広島大会)
会期：2013年8月31日(土)～9月1日(日)
会場：広島県廿日市市吉和

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト<TAXA>は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。<TAXA>メーリングリストは下記の趣旨により開設されました。

日本魚類学会

第46回日本魚類学会年会
会期：2013年10月3日(木)～6日(日)
会場：宮崎観光ホテル(宮崎市)

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト<TAXA>」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほか、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

日本蜘蛛学会

日本蜘蛛学会第45回大会
会期：2013年8月24日(土)～25日(日)
会場：高知大学農学部

2013年12月21日
日本分類学会連合
代表：加藤雅啓

日本原生動物学会

第46回日本原生動物学会大会
会期：2013年11月8日(金)～10日(日)
会場：広島大学東広島キャンパス

日本古生物学会

日本古生物学会2013年年会・総会
会期：2013年6月28日(金)～30日(日)
会場：熊本大学理学部

日本昆虫学会

日本昆虫学会第73回大会
会期：2013年9月13日(金)～16日(月)
会場：北海道大学

<TAXA>は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼動開始しました。2013年5月16日の時点で【996】名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

日本進化学会

日本進化学会第15回大会
会期：2013年8月28日(水)～31日(土)
会場：茨城大学

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、<TAXA>運営担当の三中信宏(taxa-admin@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

日本蘚苔類学会

日本蘚苔類学会第42回岡山大会
会期：2013年8月5日(月)～7日(水)
会場：岡山理科大学

[編集後記]

日本線虫学会

日本線虫学会大会(第21回大会)
会期：2013年9月5日(木)～6日(金)
会場：唐津市民交流プラザ(佐賀県)

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は松本宛(matsu@da2.so-net.ne.jp)に電子メールでお送りください。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。(ニュースレター編集担当：松本典子)

日本ダニ学会

第22回日本ダニ学会大会
会期：2013年9月27日(金)～29日(日)
会場：静岡県総合研究所もくせい会館

日本分類学会連合ニュースレター 第23号

2013年6月21日発行
発行者 日本分類学会連合
事務局 〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1
国立科学博物館

日本地衣学会

第12回大会(京都)

編集者 松本典子(平塚市博物館)
